

学校経営の概要

甲州市立塩山南小学校

塩山南小学校では、2020 年度においても、「2020 年度 甲州市学校教育指導重点」を基調とし児童や家庭、地域の状況、特色などを十分考慮する中で、学校経営の基本方針や学校教育目標、学校経営の努力点と取組内容を策定し、学校経営、運営を進めていく。

1 学校経営の基本方針

- (1) 児童にとって、「楽しい学びの場」、「温かいかかわりの場」である学校にする。
- (2) 保護者・地域住民にとって、「安心」と「信頼」がもてる学校にする。
- (3) 教職員が、「やりがい」と「誇り」をもてる学校にする。(★)

(「職員の信条」、「やまなし教員等指標～学び続ける教員のために～」、校務分掌一人一役、会議の精選・効率化、事務処理等の軽減、「絆の日」、学校評価、人事評価の活用、「学校閉庁日」等々)

2 学校教育目標

ふるさと塩山の自然と文化を愛し、主体的かつ意欲的に自己を創りあげ、社会の進歩に貢献できる知・情・意・体の調和のとれた豊かな人格の形成をめざす。

《目指す子ども像》 「やさしく かしこく たくましく」

- (1) 他人の立場を考えて、協力できる子ども (「やさしく」)
- (2) 働くことを喜び、仕事に責任がもてる子ども (「かしこく」)
- (3) 自ら考え、主体的に判断でき創造性豊かな子ども (「かしこく」)
- (4) 心身ともに健康で、たくましい子ども (「たくましく」)

《目指す学校像》

- (1) たくましく生きる力を育てる学校
- (2) 豊かな心を培い、潤いのある学校
- (3) 地域・家庭との連携を深める学校

3 学校経営の努力点

学校教育目標に向かって、自ら考え正しく判断する力や行動できる力を養い、児童一人一人が連帯の意識をもち、充実した学校生活を送ることができるように努める。

(取組内容については、「2020 年度 塩山南小学校・学校教育指導重点」を参照)

- (1) 地域・学校・学級の抱える課題を明確に捉え、全教育活動においてその解決を図る具体策を盛り込み、全ての児童の学習と発達が保障できる教育計画を策定し、改善と充実に努める。

- (2) 児童と教師の人的ふれあい、学校と家庭の連携を重視し、信頼と愛情に裏打ちされた生徒指導を行う。望ましい集団活動などを通して、豊かな心を育てる。

(3) 校内研究を充実させ、教育理念及び指導内容について、全職員が高い見識をもち常に指導の力量を磨き、教育活動の充実が図れるようにする。

(4) 地域や家庭と密接な連携を図り、相互の協力・協同の中で信頼される学校教育体制を確立できるようにする。

4 学校教育目標の具体化に向けて

(1) 学年・学級の実態と児童の発達段階に即した、学年目標（*）を設定する。その目標達成のため、教科・道徳・特別活動等の具体的な指導との関連性を明確にし、毎日の実践を充実させる教育活動に取り組む。

*学年目標；基本的には、学年目標と学級目標は同じとし、「学年目標」で統一する。

(2) 学年内の指導方針や方法の統一と調和を図るため、学年会を充実するように努める。学級づくりは全教育活動の基盤であることから、それぞれの学級で、特色ある学級経営が可能となる教育活動を行う。

(3) 学年・学級経営は、PDCA（プラン・ドゥ・チェック・アクション）サイクルに則り、検証・改善に努める。

5 主な学校行事等の概要

【本校の特色ある教育活動として】

- ① 児童一人一人のニーズに対応する教育の実現（オープン教室、「サポートルーム ひまわり」）
- ② 児童会による縦割り集会の実施（みなみっこ祭り 等）
- ③ 校舎内外の美化活動（親子クリーンアクションと、校舎内美化作業の展開）
- ④ P T A、地域と一体となった「あいさつ運動」、「有価物回収事業」

1 学期	2 学期	3 学期	年間を通じて
新任式・始業式	始業式	始業式	職員会議
入学式	避難訓練	スキー教室 6 年	校内研究
交通安全教室	水泳記録会（甲州市・山梨市）	校内席書き大会	生徒指導委員会
家庭訪問	自然教室 5 年	スキー教室 5 年	特別支援教育校内委員会
避難訓練	秋季大運動会	新入学児保護者会	PTA 運営委員会
授業参観・PTA 総会	秋の校外学習 1～4 年	児童会役員選挙	PTA 各専門部会
児童総会	東京旅行 5 年	授業参観・学年・学級懇談会	読み聞かせ活動
陸上記録会（甲州市・山梨市）	修学旅行 6 年	6 年生を送る会	あいさつ運動
有価物回収	東山梨音楽発表会 4 年	卒業式	Q-U 調査の活用
プール開き	スケート教室 3 年	修了式	NRT 検査の活用
みなみっこ祭り	マラソン大会		
学校開放日・地区懇談会	個人懇談		
終業式	終業式		

校内研修計画

甲州市立塩山南小学校

1. 研究主題

「見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力を発揮する児童の育成」
～考えるための技法を用いて～

2. 主題設定の理由

本校は、2017・2018年度の2年間、国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業に取り組んできた。研究主題は、「ふるさと甲州の伝統文化に親しみ、郷土を愛し、誇りに思う児童の育成」である。2019年度も引き続きこの取組を進めてきた。特に、総合的な学習時間、さらには特別活動に関し「伝統文化教育年間計画」の充実をさらに図ってきた。3年間にわたり、地域の歴史や文化・伝統を各教科等の学習素材として開発し、教材として活用したり、体験活動を積極的に取り入れたりすることにより、地域のよさや地域とのふれあいを子供たちがより強く実感できる取組を推し進めてきた。その結果、子供たちは先人たちが築いた伝統や文化を継承した人々の思いや生き方を学び、郷土や地域、家族や自分自身、そして、ふるさと甲州市に愛着や誇りをもつことができるようになってきた。3年間の研究の成果と課題を全教職員で共有し、年間計画の改善を手がかりとして、塩山南小学校の教育課程全体の改善を進め、「社会に開かれた教育課程」の実現につながってきている。

AI（人工知能）の発展など、社会のイノベーションは私たちの想像をはるかに超えた速さで進んでいる。グローバル化もまた同様である。変化の激しい社会を生き抜いていくためには、生涯にわたって学び続けることが求められている。その際に必要となるのが「どのように学ぶか」といういわゆる「学び方」である。わが国においては、方法知を身に付けることがアメリカなどと比べ、それほど重視されてこなかったという指摘がある。新しい時代を生きる上で子どもたちには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、たくましく、しなやかに生き抜く力を身に付けさせたいと強く思う。以上のことから、2020年度の本主題を設定した。

3. 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ①「見方・考え方」と「考えるための技法」の関係と意義についての研究をする。
- ②本校独自の「考えるための技法」を研究し、設定していく。
- ③「考えるための技法」を用いて思考力・判断力・表現力を発揮する授業づくり・授業改善を進める。

(2) 具体的な研究活動と方法

- ①「見方・考え方」と「考えるための技法」の関係と意義についての研究をする。
 - 各教科や総合的な学習の時間等、「見方・考え方」の視点や方法を研究し、「考えるための技法」との関係を決めながら、育成する資質・能力を設定をする。
- ②本校独自の「考えるための技法」を研究し、設定していく。

- 児童一人一人が自ら課題を見付け、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら解決する問題解決的な学習過程を意識して授業を行う上で「考えるための技法」を本校独自に設定し、活用を進める。（「南小思考スキル」の設定）

③「考えるための技法」を用いて思考力・判断力・表現力を発揮する授業づくり・授業改善を進める。

- 子どもたちが各教科等の「見方・考え方」を働かせて個別具体的な対象にアプローチできるようにする。また、教科横断的に汎用性のある資質・能力を育成する観点から、「考えるための技法」を可視化した「思考ツール」を積極的に活用し、授業改善を行う。

- 総合的な学習の時間を基軸として、「考えるための技法」を用いた授業実践を進める。

総合的な学習の時間については、次の内容に留意する。

- i) 「探究的な見方・考え方」を働かせる探究課題を設定する。 ii) 地域やグローバル社会、現代的な諸課題とのつながりを意識する。 iii) 各教科等との関連を明らかにする。 iv) 授業の構想や指導過程が見通せる「単元シート」を活用する。

- 学習環境の整備と人材バンク等の活用に取り組む。指導内容や教育目標を地域の産業や行政に関わる方々と共有し、連携を図りながら授業づくりを行う。

4. 研究計画

研究主任 那須 栄樹

実施時期	研究内容、研究方法、成果の公開等
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究課題、研究内容、研究組織、研究計画の検討（4月） 「研究概要と全体計画」 「学力向上・南小スタンダードの取組」 → 単元末評価問題、南小スタンダード、南小ノート ・ 「考えるための技法」の学習会（教科を例に）（4月～5月） ・ 全学級授業公開 5月20日（水） → 塩山中ブロック交流において授業公開を行い、授業改善に生かす ・ 考えるための技法（思考ツール）の研修（7月） → 山梨大学附属小学校からの教員派遣による研究・研修 ・ 「思考・判断・表現」の捉えと評価の学習会（7月） ・ 「コミュニティ・スクール」の研究・研修
夏季休業中	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミング教育の学習会 産業短期大学から講師招聘
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「考えるための技法」を活用した授業実践を行う。低・中・高学年ブロックに分かれ、ミニ研究会を行う。（一人一実践）（9月～12月） ・ 授業研究会Ⅰ（10月） ・ 授業研究会Ⅱ（12月）→ 指導主事を招聘しての指導・助言 「総合的な学習の時間」実施に際し、年間指導計画と単元計画の付加・修正を行う。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領の完全実施1年目の課題を受けて各教科の年間指導計画・単元計画の確認・見直し ・ 初等教育公開研究会（山梨大学附属小学校）授業視察（1月22日） → 附属小において総合的な学習、各教科の授業を視察し、「考えるための技法」の活用の仕方を学び、授業改善に生かす ・ 研究のまとめ・成果と課題の把握